

## 集団同一視および不合理な信念が過剰適応に及ぼす影響

### —集団場面に注目しての検討—

本研究では、集団場面における信念尺度を作成すること、集団場面における信念と集団同一視が過剰適応にどのように影響するか明らかにすることを目的とした。

予備調査にて独自に作成した集団場面における信念尺度、集団同一視尺度、過剰適応尺度、心理的ストレス反応尺度を使用し、大学生を対象として 327 名に回答させた。集団場面における信念尺度の因子分析の結果、「不信に基づく不安・被害的信念」「集団的同一化」「集団への自己顕示性」「自己愛的承認欲求」の 4 因子が抽出された。次に集団場面における信念及び集団同一視をそれぞれ独立変数として分散分析を行った。信念が強まった時、心理的ストレス反応と内的不適応・外的適応が高まることが明らかとなった。また、同一視が強まった時、心理的ストレス反応と外的適応が高まるが、「集団成員への愛着」に限り、心理的ストレス反応が低くなることが明らかとなった。最後に因果モデルを検討するために共分散分析を行った。集団同一視が、集団への信念を媒介し過剰適応に影響するパスと集団同一視が直接過剰適応へ影響するパス、それぞれが有意となるモデルが採用された。

以上の結果から、過剰適応傾向の緩和のために、個人の持つ集団に対する信念や関わり方への介入の必要性があることが示唆された。また、集団内における過剰適応の要因を明確にするために個人の集団における立場や心理的力動といった様々な視点での検討の必要性が示唆された。